



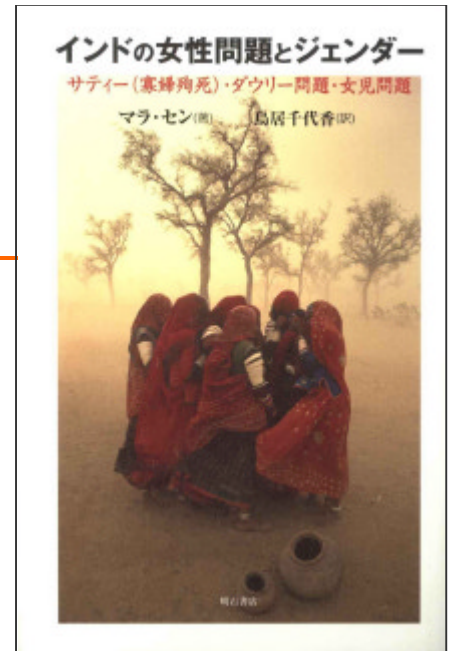
書名：『インドの女性問題とジェンダー』(Death by Fire)

サティー(寡婦殉死)・ダウリー問題・女兒問題

著者：Mala Sen / 鳥居千代香(訳)

発行：明石書店

価格：3,990円(税込み)



◇内容

インドについて考える場合に女性や子供を抜きにすることはできない。女性の社会的影響力は大きい。ビジネスの相手が男性かと思えば女性だったということも少なくない。こうした女性達がいる一方でジェンダー(社会的・文化的性差)役割を生きるしかない庶民や貧しい女性達の姿がある。本書は『インド盗賊の女王～プーラン・デヴィの真実』の著者による現代インドで最も重要な3つの問題についての渾身のルポである。1987年に亡夫と一緒に生きながら焼かれた18歳の新婚の妻が行ったサティーの跡地を昨年訪れ沈んでいた訳者は、保守的と思える同じラージャスターン州で王家出身ではあるが女性が州首相になったという人々の喜びの声を聞いた。本書と一面では語れないインドを理解してほしいと、関連あるインド各地を旅して訳者が撮影した多数の写真も掲載している。

◇目次紹介

- 第1章 1987年、ループ・カンワールのサティー 第2章 インドと西洋の歴史の中でサティーをめぐる反応
第3章 宗教的および政治的背景 第4章 ラージャスターン州におけるサティー賛美 第5章 南インドの身に起こったこと
第6章 南インドでセルヴィに再会 第7章 セルヴィの「事故」とその後 第8章 タミルナドゥ州の女兒問題
第9章 寺院都市マドゥライ周辺 第10章 1995年、インド北西部とループ・カンワールの婚家を訪ねて
第11章 西ベンガル州の寡婦殉死とラージャスターン州のサティーの違い 第12章 サティーのあった日
第13章 ループ・カンワール事件をめぐる証言 第14章 誰が火をつけたのか？
第15章 ジャイプールからデリーへ、ダウリー問題 第16章 寡婦の町ヴリンダヴァン訪問とベナレス
第17章 レイブやその他の事件 第18章 インドで初めて有罪宣告されたカルパイーの事件
第19章 タミルナドゥ州カツラル族にある慣習 第20章 カルパイーと娘たち 第21章 ジャイプールの女性活動家や弁護士
第22章 19世紀のベンガル州の社会改革とジェンダー関係 第23章 1997年、ループ・カンワールの婚家再訪と発見